

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

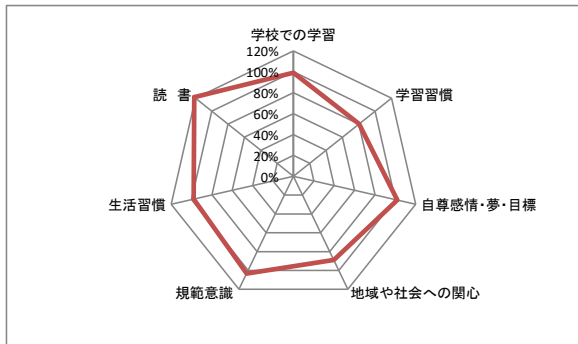
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話す・聞く、読む能力が高い。特に言語についての知識理解・技能が高い。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よってきた問題	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	知識・技能の問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	帯グラフから割合の違いがいちばん大きい項目を選び、その項目と割合を書く問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習中、「友達との話し合い」をよく行っていたと答える児童が多く、学校での学習に真面目に取り組んでいることが分かる。 ・ 宿題を毎日する児童は多いが、自分で計画を立て1日当たり1時間以上勉強をしている児童は少ない。 ・ 規範意識や自尊感情は高い。 ・ 地域や社会への関心がやや低い。 <p>このようなことから、正答率は向上しているものの学習習慣に課題があるといえる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ 分かる授業の実施(めあて・ふりかえり)し、学びあう力を育てていく。
- ・ 朝自習・チャレンジタイムの時間を使って学力の定着に継続的に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 家庭学習強化週間を設け、宿題・家庭学習の計画的な実施と定着を目指す。
- ・ 読書や学習習慣の大切さを通信や学級懇談会等で、今後も発信していく。